

家政学部 住居学科

【中学校一種免許状（家庭） 高等学校一種免許状（家庭）】

①教員養成の目標

住居学科は、本学創設以来の女子教育の伝統と、生活に根ざして実践的な学問を形成した家政学を基礎としつつ、人びとの生活の場を対象にして教育・研究を行ってきた。教育理念としては、男性も女性も、子供から高齢者まで、障害があったとしても、安全で、かつ健康的で、美しい生活の場を、「住まい手」自らの立場で考え、創造する能力を育成することにある。

個人、家族、コミュニティとしての生活環境については、人文・自然・社会科学といった多角的な視座からの見識と深い洞察力が必要であり、一方でインテリアから建築、近隣や地域にまでおよぶ身の周りのフィジカルな環境の改善への取り組みには、技術的・工学的な知識を含めて、総合的・実践的な考え方を身につけることが重要である。そのような住居学の専門性を通じて、生活環境の改善に幅広く貢献し、快適な住環境を実現できる人材を育成する教員を広く世に輩出することをその理念としている。

生活の拠点となる住居、そして住居を取り巻く地域の教育・文化・福祉・医療機関といった各施設、道路・公園など、それらすべてが地域の住環境を形成している。より良い住環境の実現には、各分野の専門家の存在以上に、快適で健康的にそして生き生きと過ごせる環境のあり方を総合的に考察し、創造することができる生活者自身の教育が不可欠である。その社会的責務を果たすために、住生活に関わる教育者を養成する教職課程を設置している。家政学部の他学科と連携して、技術・家庭科に関わる幅広い知識を習得することができる教育システムを確立している。

②当該目標を達成するための計画

中学校一種（家庭）

教員免許を取得するために、基礎的な知識取得・思考に関する科目を低学年に配置し、上級生になるほど専門性と表現方法の習得を増した学習内容とする。アクティブラーニングを導入・活用し、教育手法の向上にもつなげる。

高等学校一種（家庭）

教員免許を取得するために、基礎的な知識・思考に関する科目を低学年に配置し、上級生になるほど専門性・総合性・社会との連携性を増した学習内容とする。アクティブラーニングを導入・活用し、教育手法の向上にもつなげる。